

富田林市庁舎整備基本計画を策定しました

庁舎整備の概要

- ・庁舎整備の方法は北館・南館を含めた全面建て替えとします
- ・庁舎の規模は約1万5500平方メートルと設定します
- ・庁舎整備の場所は現在地と設定します
- ・工事費93.9億円、その他関連費11.4億円

計画について詳しくは、市ウェブサイト（総務課のページ）をご覧ください（右図のQRコードからもアクセスできます）。



問い合わせ
総務課（内線341）

市役所本庁舎の北館および別館は建設から50年、南館は36年が経過し、耐震性能の不足や建物の老朽化などさまざまな問題を抱えています。本市では、安全性の確保や利便性の向上、社会情勢の変化などに適切に対応するため、庁舎整備の検討を進めています。

このたび、「富田林市庁舎整備基本計画」を策定しましたので、概要についてお知らせします。

なお、本計画の策定にあたっては、学識経験者や市内の各団体代表者、一般公募による市民で構成する委員会を設置し、市民アンケートや市民ワークショップ、団体ヒアリングなどにより、広く市民の皆さんの



設備の古いトイレ



浸水被害

意見を伺いながら検討しました。

現庁舎の現状と課題

平成29年度に耐震調査を実施した結果、北館は耐震性能が低く、大規模地震発生時には倒壊または崩壊する危険性があることが分かりました。

その他にも「施設・設備の老朽化」「スペースの不足」「建物や窓口の場所の分かりにくさ」「バリアフリーや誰もが使いやすいユニバーサルデザインへの対応」「駐車場・駐輪場の利便性不足」「災害対応・安全面の機能不足」「まちづくりの拠点としての機能不足」など、今の庁舎は多くの課題を抱えています。



十分な広さのない窓口



壁面のひび割れ

基本理念

人・自然・歴史・文化を次世代につなぐ富田林の創生拠点

基本方針

①わがまち富田林・まちづくりの核となる

情報コーナーや市民協働スペースなどを設置し、市の魅力を発信するとともに、市民同士の交流など、まちづくりの核としての庁舎づくり



②地域と市民を守る

耐震性能の確保や、防災拠点として災害時に迅速かつ的確な対応ができる庁舎づくり



③すべての人にやさしい

分かりやすい窓口の配置や、誰もが利用しやすいトイレなど全ての人にやさしい庁舎づくり



④自然環境に配慮する

再生可能エネルギーの活用や、LED照明の採用など省エネルギー技術の導入



⑤将来の変化に柔軟に対応できる

社会情勢の変化に伴い、柔軟に対応できるコンパクトな庁舎づくり



事業スケジュール



基本設計・実施設計を行った後、令和5年度に建設工

今後に向けて

今後は、令和3年度より基本設計・実施設計を行った後、令和5年度に建設工

庁舎整備の方法および基本理念

現在の庁舎が抱える課題解決を図り、経済性や耐震性能を踏まえて検討した結果、庁舎整備の方法は北館・南館を含めた全面建て替えが最も効果的な方法となりました。

新庁舎は、次世代のために、富田林市の魅力を活かしながら、まちににぎわいと勢いを取り戻し、あらゆる世代の市民が、この地に愛着と誇りを感じる事ができるまちづくりの拠点となることをめざします。

事に着手、令和10年度に庁舎建物全体の供用開始を想定しています(左図参照)。

新庁舎の整備においては、基本理念・基本方針をもとに今後の社会情勢の変化やSDGsにも対応した庁舎とするともに、本市に有利な事業債の活用や、借地の返還、北館にある部署を事前に南館や他の公共施設に移すなど、安全面の早期確保と将来的なコストを含めた経費削減を図るよう検討を進めます。

さらに、金剛地区における庁舎機能の必要性も勘案する中で、本計画で示した庁舎の各機能や空間の細部のあり方、具体的な施設計画、さらには必要規模についても、引き続き検討していきます。

なお、事業を進めるにあたっては、市ウェブサイトや広報誌などで進捗状況などを情報発信するとともに、市民の皆さんの意見、要望を伺いながら進めていきます。